
当院での在宅血液透析普及に向けての推進活動

医療法人衆和会 長崎腎病院

○佐藤 泰崇、田賀農 恵、林田 征俊、矢野 利幸、高木 伴幸、舩越 哲

【背景】

当院では、2008年よりHHDを開始したが、長らく1症例のまま経過し、HHD患者数は増加しなかった。QOLや、生命予後の観点からもっとも望まし医療の姿といわれるHHDを少しでも多くの透析患者が享受出来るようにという思いからHHD普及に向けての活動を行った。

【目的】

当院での在宅血液透析患者数を増加させる。

【方法】

患者へHHDという存在やその優位性について広く認知してもらう活動だけでは不十分であり、透析療法に直接従事する如何に関わらず、全職員への啓発活動こそ重要と考え、『HHDの啓発と推進』を法人の年度目標に設定し、全部署で推進活動を行った。

【結果】

一連の推進活動により、HHD施行患者数は2017年末現在16名へ増加した。

【考察】

HHD普及に際し、障壁となり得るであろう諸問題もさることながら、目標を達成するべく病院全ての職員が同じ方向を向き、HHDへの造詣を深めることこそがHHD普及に向けて重要な要素であると思われる。